

令和3年度 第1回宇治市水道事業経営審議会議事録

会議名	令和3年度 第1回宇治市水道事業経営審議会
日時	令和3年5月21日（金） 午前9時30分～午前10時30分
場所	Zoomによるオンライン会議
出席者	<p>（委員） 西垣会長 向畑副会長 伊木委員 島津委員 徳田委員 向山委員 山本委員 横川委員</p> <p>（事務局） 松村市長（諮問後、公務のため退席） 山田上下水道部長 蒲原上下水道部副部長 中村上下水道部技術参事 塚本営業課長 津田工務課長 藤井配水課長 藤井水管理センター場長 野口水道総務課副課長 藤川水道総務課主任 多田水道総務課主任</p> <p>（傍聴者） 受付なし</p>
1 開会	<p>事務局より、欠席の岐部委員、清水委員、西出委員、保田委員、山崎委員、山田委員から本日の議事についての同意を書面でいただいている旨の説明を行った。</p>
2 市長挨拶	
3 議事	<p>（1）諮問（松村市長から西垣会長に諮問） 事務局より、諮問事項に関する説明を行った。（資料3）</p> <p>（2）専門部会の設置について</p> <p>（会長） これから審議する内容は、10年間で130億円となる更新投資と安定的な運営を図るための経営改善の努力や資金計画となるため、より専門的な経営分析の視点が必要となる。技術的な側面も含むような専門的な話を全体の審議会で進めるのは、時間的にも難しいと考えており、専門部会を設けてより詳細な内容を検討し、本審議会との間でやりとりしながら議論を進めたい。</p> <p>（委員） 異議なし。</p> <p>（会長） 専門部会の委員については事務局と調整し、案を作成した。</p> <p>（事務局） 学識経験者として西垣会長、山本委員、水道事業有識者として向畑副会長、伊木委員、経営知識等有識者として徳田委員、この5名の方で構成する案とさせていただいた。</p> <p>（委員） 異議なし。</p> <p>（会長） 後ほど事務局からスケジュールの説明を行うが、専門部会を2回行い詳細な内容を検討した後、本審議会の意見を伺う。その後再び専門部会を</p>

招集して議論した後、本審議会に提案したい。

(委員) 異議なし。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より、今後のスケジュールに関する説明を行った。(資料5)

質疑応答

(委員) 「宇治市水道ビジョン・経営戦略」で示された収支改善策について具体的に示すこと。また、いかに収支を改善していくかが諮問事項の一つと考えている。

(委員) 収支改善施策について、詳細な部分を具体的に示すことで理解しやすくなると思う。

(会長) ビジョンは長期構想であり抽象的な表現となっている。具体的で理解しやすい施策となるよう審議会を進めたい。

(委員) 収支改善施策についての専門部会での意見を審議会の委員に理解いただくための分かりやすい表現が必要となる。また1回目の専門部会で、料金体系についても論点整理が必要だと思う。

(会長) 理解しやすく、かつ具体性を持って取組みたい。収支改善については、宇治市でも長年に渡り様々な努力を積み重ねている。それらの資料を活用し、シミュレーションしながら議論を進めたい。

(委員) 料金改定ではなるべく自分たちの代で赤字を償却できるようにしたい。

(会長) 今後、水道事業経営や自治体運営が困難となる時期だと感じている。将来世代に負担を残さないという観点は重要だと考える。

(委員) 広域連携しており、黒字経営の市町について知りたい。そのような市町から財政健全化のヒントが得られるのではないかな。

(会長) 広域連携は将来に渡ってのコスト改善、また運営の持続性を高めることが期待されている。府全体でもそのような計画を立てている。

(事務局) 広域連携についてはこれから進めていくが、効果的でなければ理解を得られないと考えている。広域連携している他団体は基本的に黒字経営であると思うが、今後、どのような取組みをしていくかが課題だと思う。十分検証して進めたい。

(会長) 府南部でも、中小規模の市町の持続性が重要視されている。コスト的にメリットのある広域連携を目指すべきである。府南部の中で、宇治市周辺から期待される役割は大きい。周辺市町と共同してコスト面や、持続可能な面でメリットのある取組みができたらいのではないかな。

(副会長) 期間が短いので、過去の経験を踏まえて、論点を絞り、課題を整理して

進めたい。また、専門部会委員と審議会委員と相互理解を重要視したい。

(会長) ご指摘いただいたことを踏まえ、専門部会を作り、答申をまとめたい。

(委員) 平成28年度当時、水道料金の改定に気がつかなかった。前回の料金改定による収支の推移や、再び料金改定が必要となる背景の説明を受けたいと考えている。

(会長) 前回の料金改定により、管路の更新や施設の耐震化が大きく改善してきた。しかし、水需要が低下していく。また、宇治市が用水供給を受けている府では、宇治市が中心として利用している施設の老朽化により更新が急務の課題となっているため、用水供給料金が改定され、用水料の負担が高くなっているなど、いくつかの要因が積み重なっている。そのような原因やどこまで料金改定率を抑制できるかを理解しやすい形で議論していく必要がある。

(事務局) 料金改定が市民に十分伝わるよう、今後の広報活動にも注力していきたい。建設事業や水需要の減少、府営水などの要因により収支が悪化している。これらについて、理解しやすく説明することが課題だと考えている。

(4) その他

事務局より、今後の専門部会、審議会の形態案について説明を行った。

4 閉会